平成 25 年 6 月 14 日

岡山県感染症週報　2013 年 第 23 週（6 月 3 日～6 月 9 日）

◆2013 年　第 23 週（6 / 3～ 6 / 9）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 22 週　2 類感染症　結核　4 名（60 代　男　1 名、70 代　男　1 名、80 代　女　2 名）
5 類感染症　侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（40 代　男）

第 23 週　2 類感染症　結核　3 名（20 代　女　1 名、30 代　女　1 名、80 代　男　1 名）
3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　1 名（O157：生徒　男）
5 類感染症　侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（60 代　男）
破傷風　1 名（80 代　女）
風しん　3 名（20 代　女　1 名、30 代　男　1 名、40 代　男　1 名）

■定点把握感染症発生状況

○感染性胃腸炎は、331 名（定点あたり 8.43 → 6.13 人）の報告があり、前週より減少しました。

○手足口病は、県全体で 58 名（定点あたり 0.98 → 1.07 人）の報告があり、前週とほぼ同数でしたが、備中地域では 43 名（定点あたり 5.29 → 6.14 人）となり、先週にひきつづきレベル 3 で推移しています。

○ヘルパンギーナは、先週より増加しました（定点あたり 0.30 → 0.65 人）。

---

1. **風しん**は、23 週に 3 名の発生報告がありました。岡山県では今年の第 1～23 週までの報告累計が 48 名となり、第 15 週以降 8 週連続して発生報告が続いています。
   全国の第 1～22 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 33 倍となる 9,408 名が発生し、依然、患者の急増が続いています。風しんについて、詳しくは『**風しん情報**』をご覧ください。

2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、1 名の報告があり、今年は第 23 週までに 15 名が報告されています。過去 5 年の同時期とほぼ同数の発生ですが、過去 5 年発生件数の平均を見ると、6 月には 5 月の 2～3 倍の発生が見られます。食品は冷蔵庫で保存し、できるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

3. **感染性胃腸炎は**、331 名（定点あたり 8.43 → 6.13 人）の報告があり、前週より減少しました。
   県内の発生状況など詳しくは『**感染性胃腸炎情報**』をご覧ください。

4. **手足口病**は、備中地域で定点あたり 6.14 人となり、前週（5.29 人）より増加しました。前週からひきつづき、レベル 3 の状態で推移しています。
   症状は、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に 2～3mm の水疱性発しんが出現するのが特徴です。例年、7 月～8 月頃に流行のピークを迎えますが、6 月頃から患者数の増加が見られます。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染が主な感染経路です。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行する等、感染予防に努めましょう。

5. **ヘルパンギーナ**は、先週より増加しました（定点あたり 0.30 → 0.65 人）。
   ヘルパンギーナとは、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。例年、6 月頃から急激に発生報告数が増加し、7 月頃にピークを迎えます。症状は、突然の発熱につづいて、のどが痛くなり、軟口蓋（口腔内の上側奥の柔らかい部分）に直径 1～5mm ほどの赤い小水疱が多数出現します。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染が主な感染経路です。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたりウイルスが排出されることもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行する等、感染予防に努めましょう。

【お知らせ】「2012 / 2013 年シーズン　岡山県インフルエンザのまとめ」を掲載しました。
今シーズンにおける定期的な感染性胃腸炎情報は、今週（第 23 週）をもって終了いたします。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↓	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	↘	★★★	水痘	→	★★
手足口病	→	★	伝染性紅斑	↘	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↑	★
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	

【記号の説明】 前週からの推移: ↗ :2 倍以上の減少　↘ :1.1～2 倍未満の減少　→ :1.1 未満の増減
↓ :1.1～2 倍未満の増加　↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし　★: 僅か　★★:少し　★★★:やや多い　★★★★:多い　★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

風しん情報

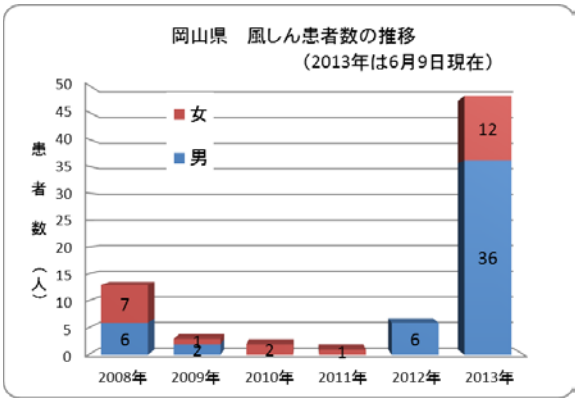
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の 5 類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

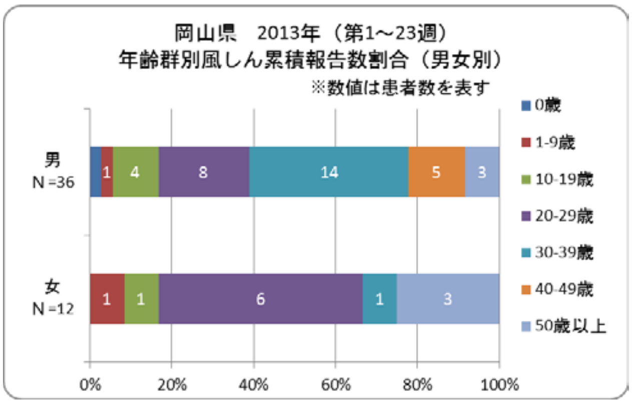
今年は、関東地方・近畿地方を中心に患者の急増が続いています。風しんは飛沫感染により感染します。風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

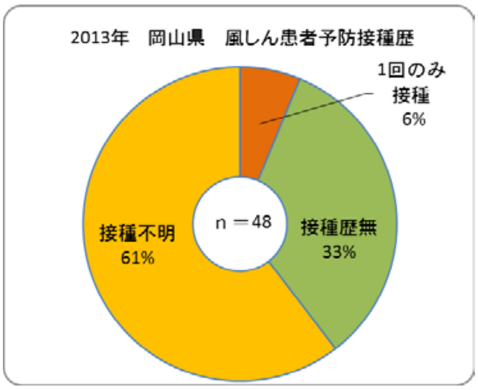
（国立感染症研究所　風しん Q&A）

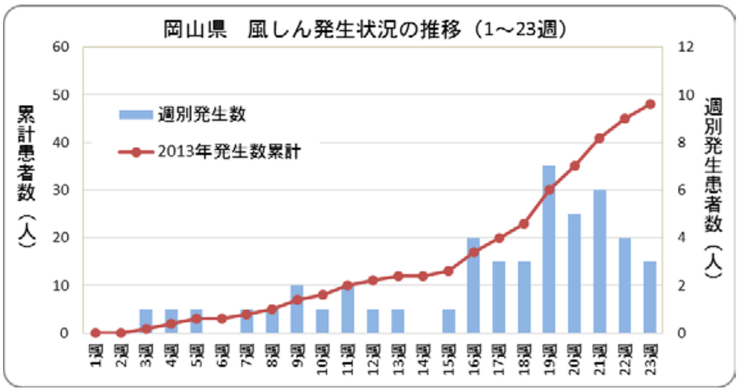
【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、23 週に 3 名の発生報告がありました。2013 年第 23 週までの累積患者数は 48 名となり、第 15 週以降 8 週連続して発生報告が続いています。患者は、全国集計同様 20～30 代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが 16 名、接種不明が 29 名、１回のみ接種が 3 名でした。





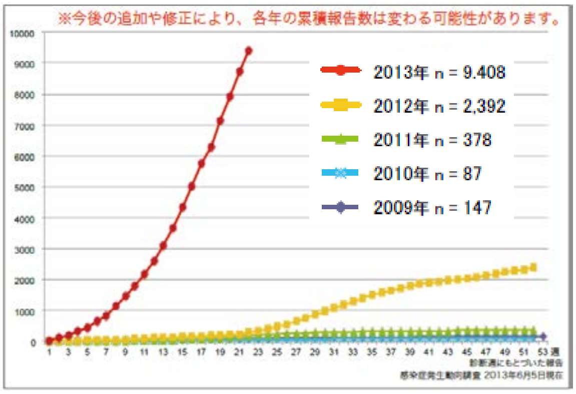




【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第 22 週までの累積報告数は 9,408 名であり、関東地方・近畿地方を中心に、患者の急増が続いています。患者の約 8 割は男性で、そのうち 20～40 代が 83% を占めています。また女性は、20～30 代が 59% を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかった、または、集団接種から個人接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群（CRS）は、2012 年は 5 名でしたが、2013 年は 5 月 10 日までに、すでに 5 名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013 年(第 1～22 週)
国立感染症研究所　感染症疫学センターホームページより

【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。
風しんの定期予防接種対象者（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しん対策の観点も考慮し、麻しん風しん混合ワクチンを接種することが推奨されています。

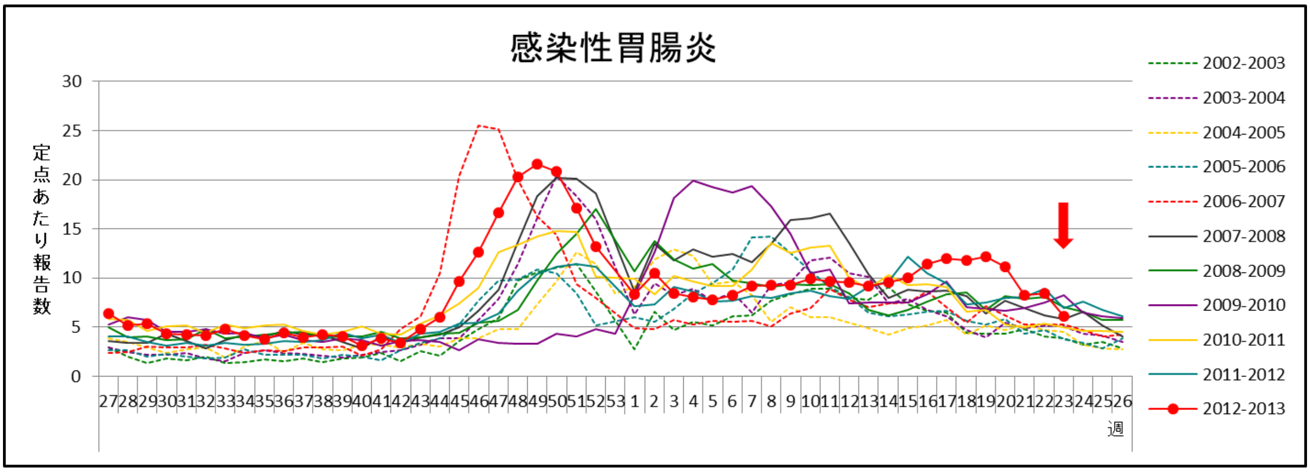
おかやま医療情報ネットから、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種のご予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

平成 25 年 6 月 14 日

感染性胃腸炎情報　2013 年　第 23 週　（6 月 3 日 ～ 6 月 9 日）

【お知らせ】今シーズンにおける定期的な感染性胃腸炎情報は、今週（第 23 週）をもって終了いたします。

○岡山県内の患者報告数は 331 名（定点あたり 8.43 →6.13 人）であり、前週より減少しました。

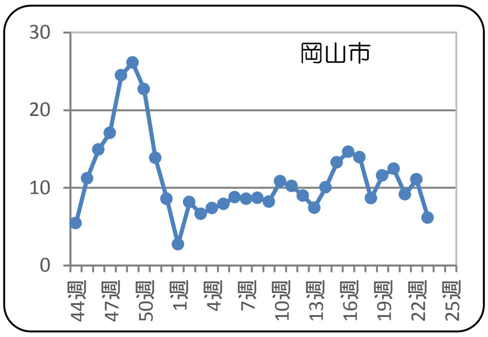


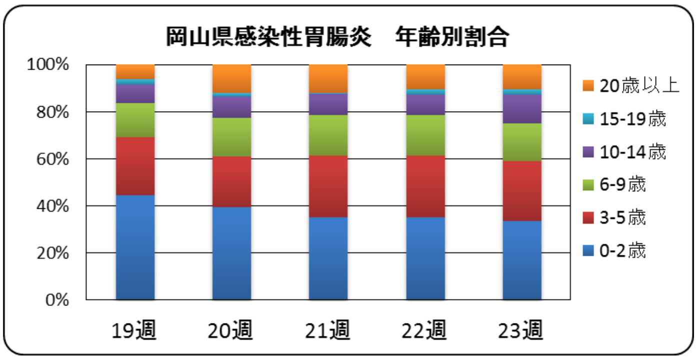
※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ～ 今年 26 週を　1 シーズンとして、グラフを作成しています。

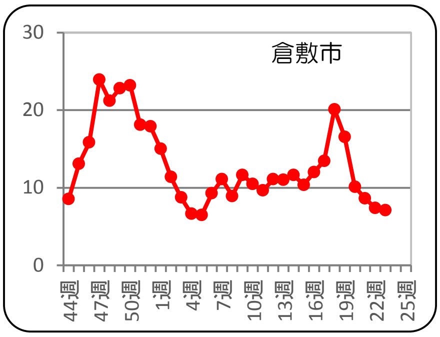
感染性胃腸炎は、331 名（定点あたり 8.43 →6.13 人）の報告があり（54 定点医療機関報告)、前週より減少しました。年齢別では、0～2 歳が全体の 34％と、ひきつづきこの年齢層の割合が、高くなっています。

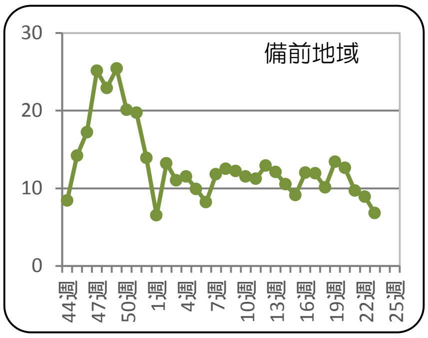
全国の胃腸炎ウイルス検出状況によると､ノロウイルス及びロタウイルスによる胃腸炎のピークは越えたようですが、例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。トイレの後や食事、調理の前には、特にしっかりと石けんと流水で手洗いを行う等、感染予防に努めてください。食中毒の原因となる菌には、増殖しても味やにおいにはあまり変化を起こさないものもあります。味やにおいを過信するのはやめましょう。

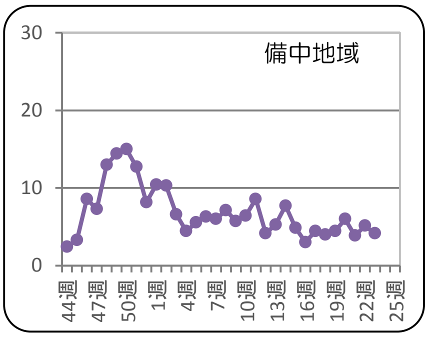
◆地域別・年齢別発生状況(定点あたり数）

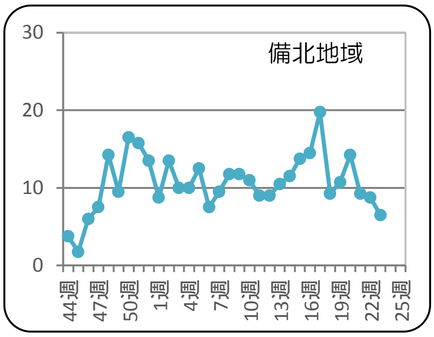


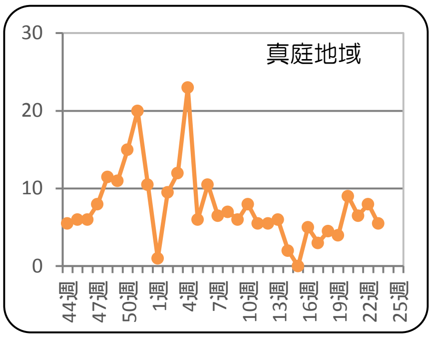


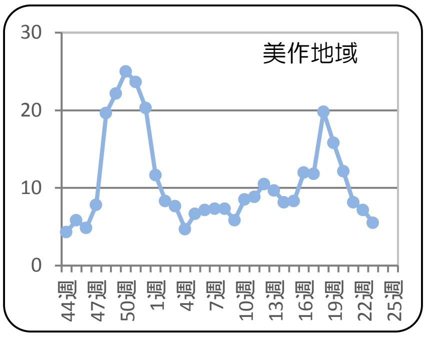






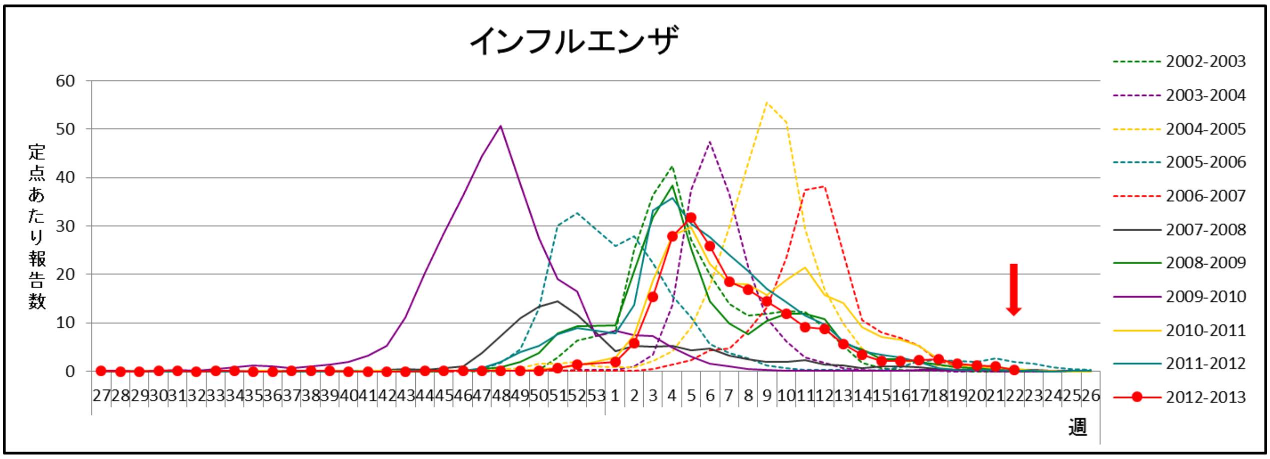






岡山県　インフルエンザ発生状況

（ 2012／2013 年シーズンまとめ ）

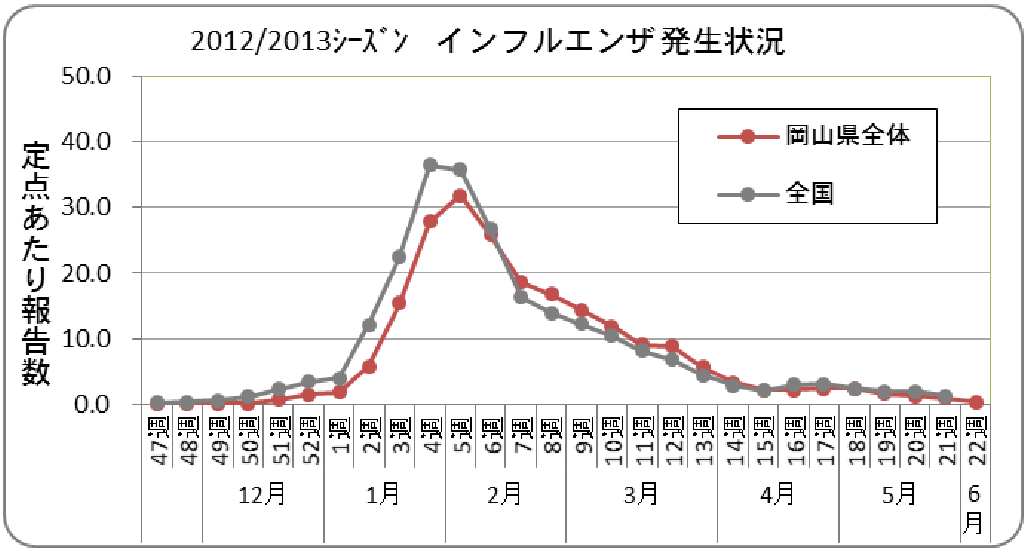


※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ～ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

岡山県における 2012 / 2013 年シーズン（2012/ 7/2～2013/ 6/ 2 まで）、県内定点医療機関 84 定点から報告されたインフルエンザの発生動向をまとめました。

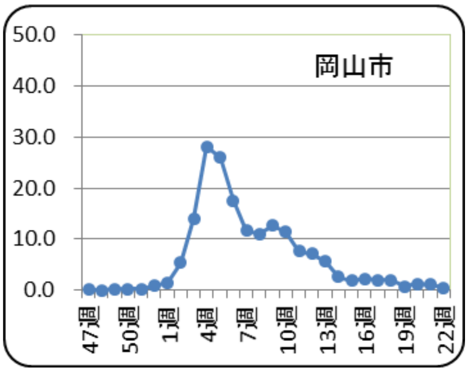
岡山県では、2012 年 第 27 週（7/2～7/8）に今シーズン初めての患者が報告され、第 52 週（12/24～12/30）に定点あたり患者数が 1.43 人となり、流行に入りました。以降、急速に拡大し、2013 年 第 2 週（1/7～1/13）に 5.81 人となり、定点あたり 5 人を越えたため、岡山県は 2013 年 1 月 17 日「インフルエンザ注意報」を発令しました。2013 年 第 5 週（1/28～2/3）には 31.79 人となったため、2 月 7 日「インフルエンザ警報」を発令し、さらなる注意喚起をはかりました。警報を発令した第 5 週の 31.79 人が、そのまま今シーズンのピークとなり、第 6 週以降、患者数は徐々に減少しました。第 21 週（5/20～5/26）0.93 人、第 22 週（5/27～6/2）0.35 人と、2 週連続して定点あたり患者数が 1 人を下まわったため、岡山県に発令されていたインフルエンザ注意報は 6 月 6 日をもって解除になり、今シーズンのインフルエンザの流行は終息したと考えられます。

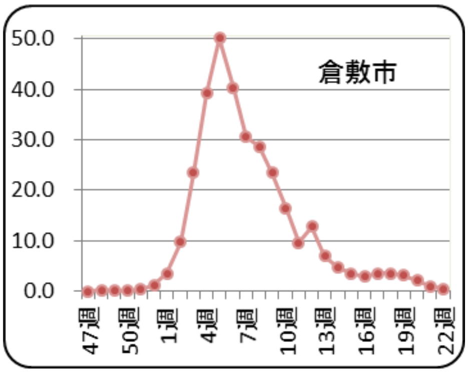
全国では、岡山県とほぼ同様に推移し、2012 年 第 50 週（12/10～12/16）に 1.17 人となり、流行に入りました。その後、2013 年 第 4 週（1/21～1/27）に 36.44 人となり、流行のピークを迎えました。以降、患者数は徐々に減少し、第 21 週（5/20～5/26）には 1.21 人となり、沖縄県（4.64 人）以外の、全国の保健所地域で注意報レベルを下まわりました。

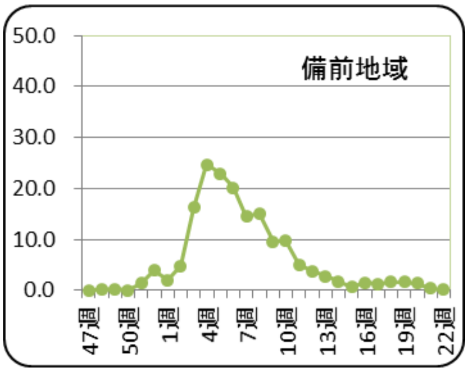


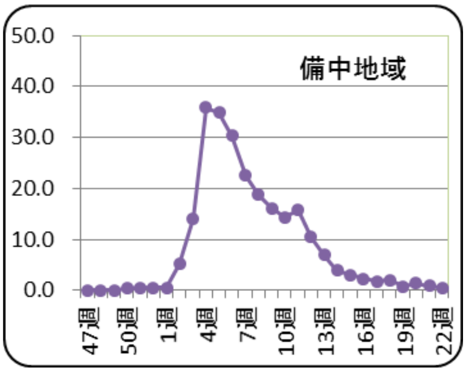
１．地域別発生状況

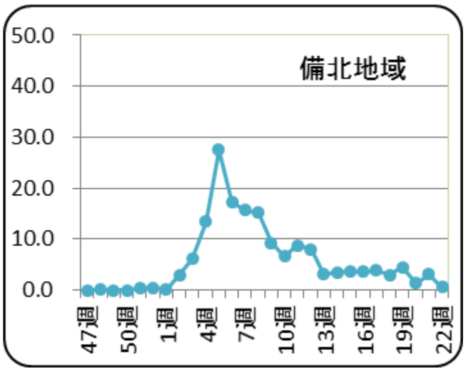
地域別発生状況は、2012 年第 44 週（10/29～11/4）頃から、倉敷市・備前地域を中心に患者が報告され始めました。流行初期は倉敷市・岡山市・備前地域を中心に拡大し、やがて 2013 年第 2 週（1/7～1/13）には全地域で流行開始の指標である定点あたり 1 人を上まわり、県内全域で流行期に入りました。その後患者は増加をつづけ、ピーク時には、特に倉敷市（50.00 人）、真庭地域（37.67 人）、備中地域（35.85 人）、で患者が多く報告されました。各地域とも、2013 年第 4～6 週（1/21～2/10）をピークに、患者数は減少をつづけ、第 22 週（5/27～6/2）、全ての地域で定点あたり 1 人を下まわり、今シーズンの流行は終息したと考えられます。

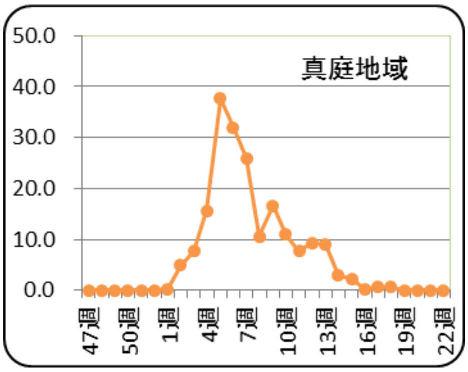


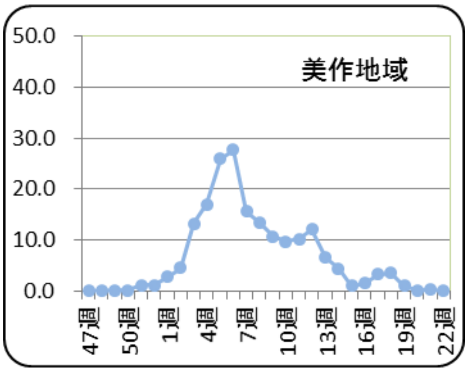








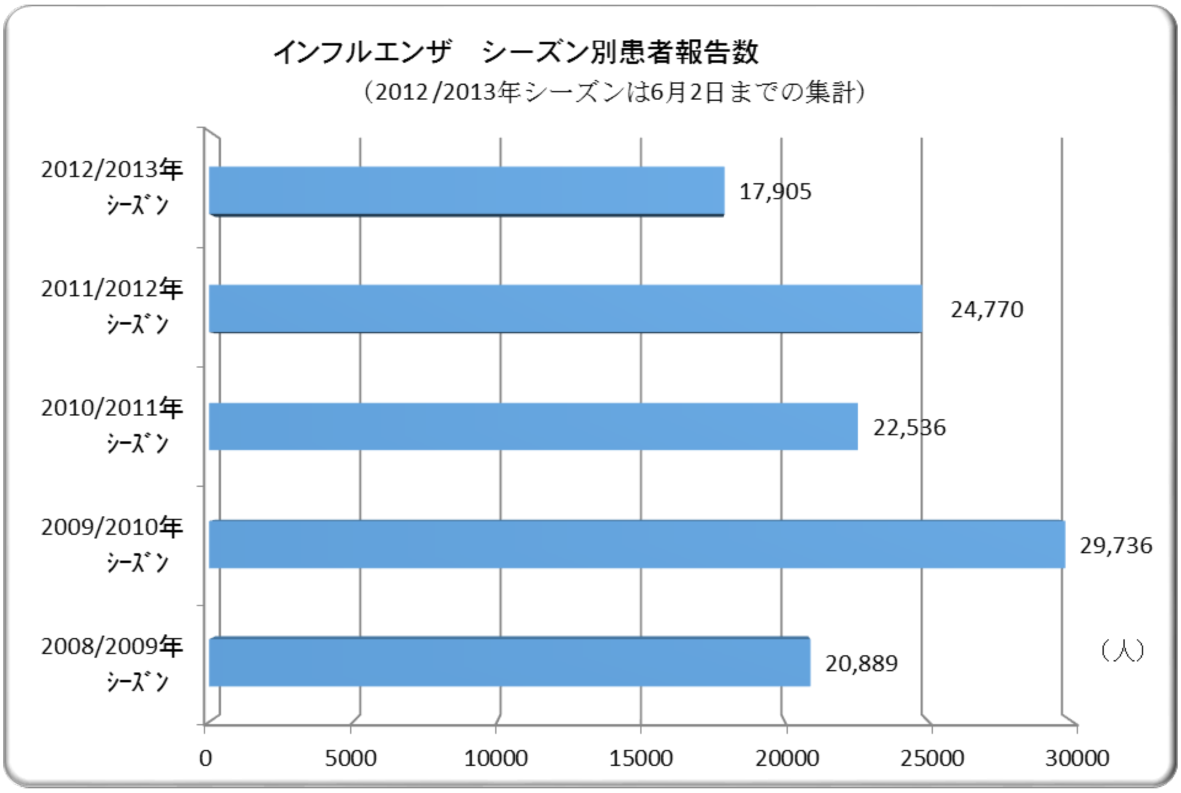


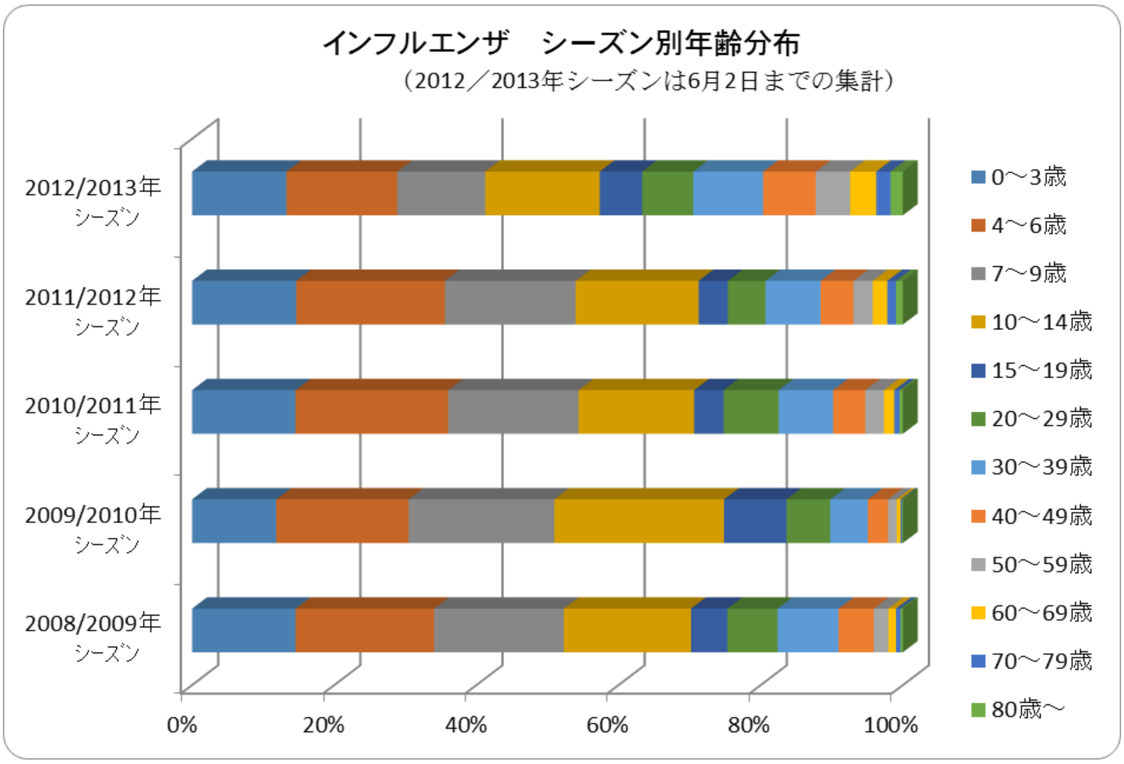


２．年齢別発生状況

　2012/2013 年シーズン、県内の患者報告数は 17,905 人となり、過去 5 年間では、最も患者発生の少ないシーズンとなりました。

年齢分布は、10～14 歳が最も多く（16.1%）、つづいて 4～6 歳（15.6%）、0～3 歳（13.3%）の順でした。
昨シーズンと比較して4～9歳の年齢層の割合が少なくなり、15歳以上の各年齢層の割合が増加しました。





３．インフルエンザウイルス検出状況

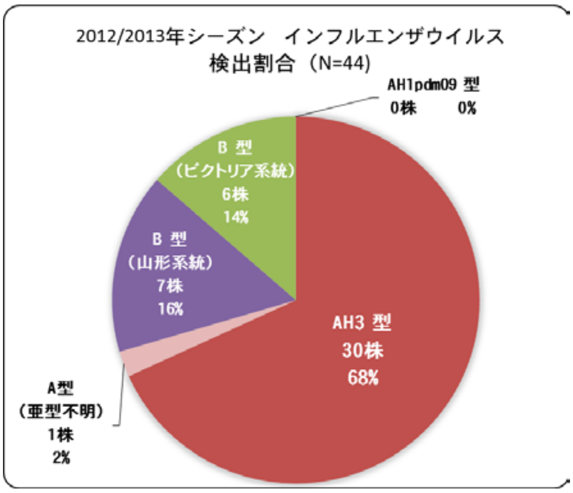
2012 / 2013 年シーズンにおける岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス 44 株の検出割合は、前シーズン同様、AH3 型が最も多く 30 株（68％）、B 型 13 株（30％）（B 型のうち山形系統 7 株（16％）、ビクトリア系統 6 株（14％））でした。2010 / 2011 年シーズン、2009 / 2010 年シーズンに半数以上を占めた AH1pdm09 型は、検出されませんでした。

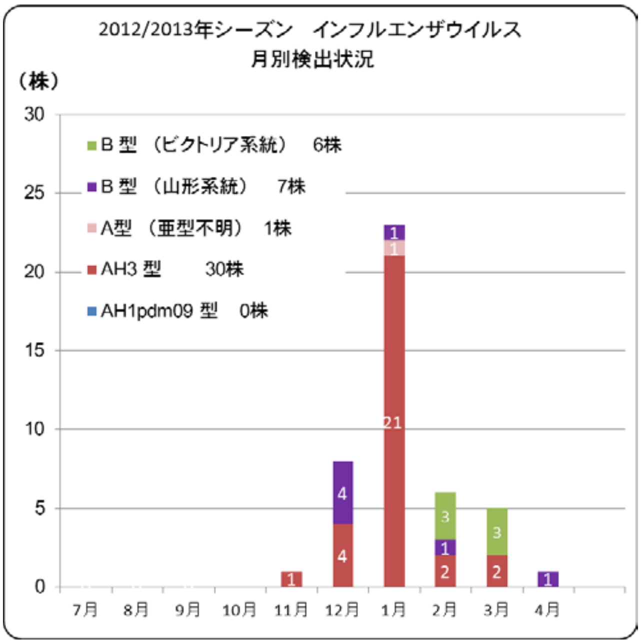
月別発生状況は、11 月の発生時は AH3 型が検出され、12 月には AH3 型と B 型（山形系統）が検出されました。その後、1 月の流行期は AH3 型が主流になり、2 月以降徐々に B 型の割合が増加しました。

全国でこれまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 4,823 株（78％）、B 型 1,195 株（B 型のうち山形系統 691 株（11％）、ビクトリア系統 297 株（4.8％）、系統不明が 207 株（3.4％））、AH1pdm09 型が 135 株（2.2％）報告されています。月別検出状況は岡山県と同様の傾向であり、また、AH1pdm09 型は全国でも検出がわずかでした。

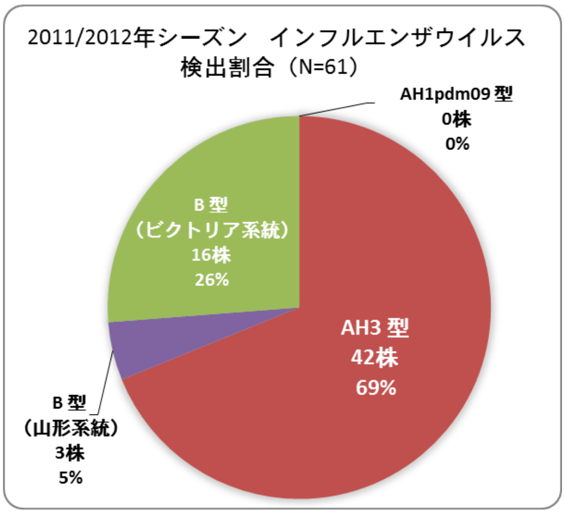
（インフルエンザウイルス分離検出状況　国立感染症疫学センター）

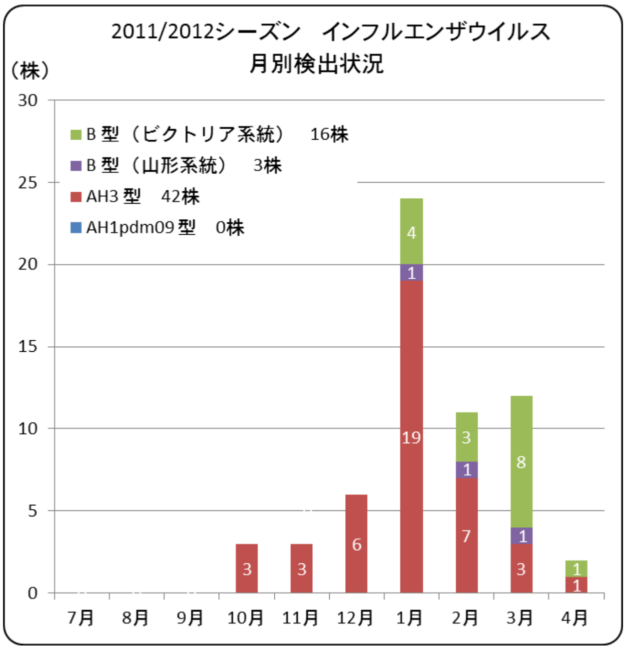
【2012 / 2013 年シーズン】





【2011 / 2012 年シーズン】

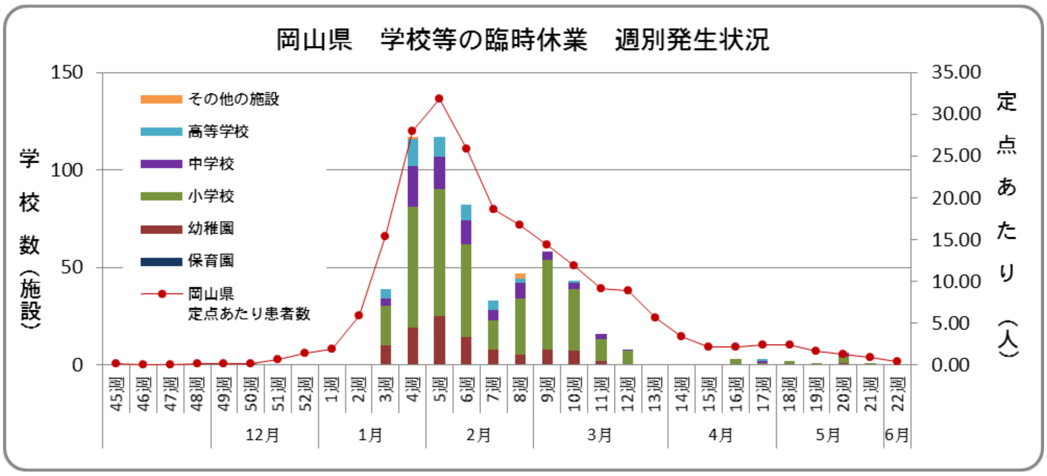




４．インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのインフルエンザとみられる臨時休業は 578 施設で、昨シーズン（1,004 施設）より減少しました。

施設別では、幼稚園　99 施設、小学校　347 施設、中学校　81 施設、高等学校　47 施設、その他　4 施設でした。初発は 2012 年 11 月 6 日で、昨シーズン（10 月 31 日）より遅い報告となり、今シーズンのピークには 1 週間に 117 施設の報告がありました。



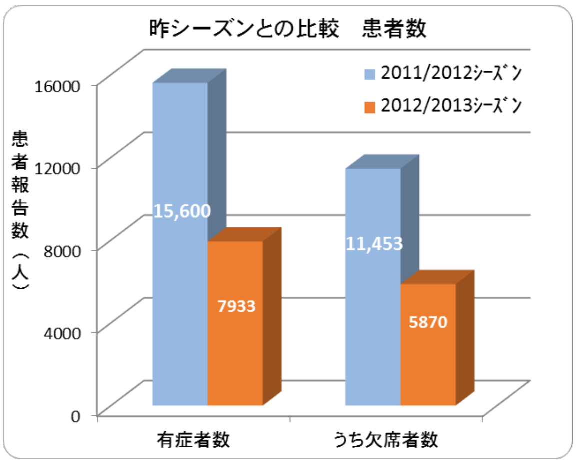
1）有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

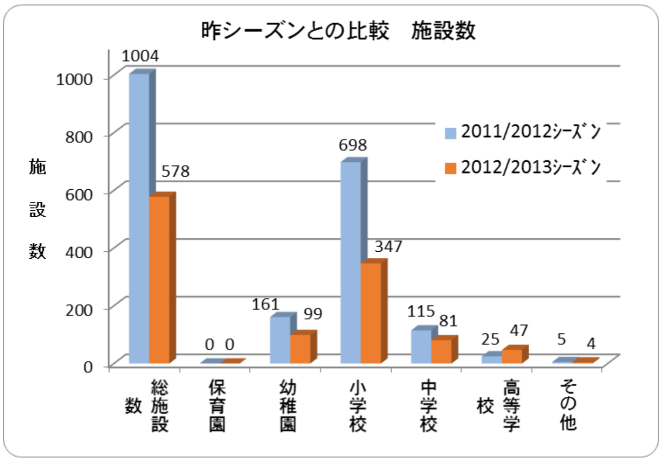
地域名＊	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	**7933**	**5870**	**578**	**22**	**185**	**371**	**H 24. 11. 6**
岡山市	2955	2144	190	2	32	156	H24. 11. 6
倉敷市	1791	1288	109	1	15	93	H25. 1. 15
備前地域	904	693	83	4	37	42	H25. 1. 15
備中地域	1115	899	93	6	42	45	H24. 12. 12
備北地域	310	238	32	3	23	6	H25. 1. 21
真庭地域	128	90	12	1	9	2	H25. 1. 21
美作地域	730	518	59	5	27	27	H25. 1. 15

＊ 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳　　累計：578 施設　　（施設）

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	―	99	347	81	47	4





５．インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点　５医療機関による報告)

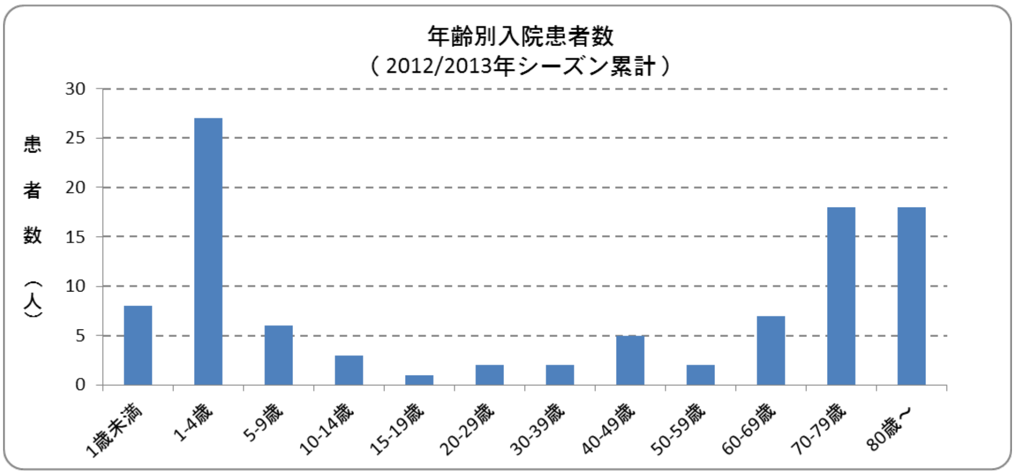
今シーズンにおけるインフルエンザによる入院患者数は 99 名であり、4 歳以下の幼児（35%）と、70 歳以上の高齢者（36%）が多くを占めました。

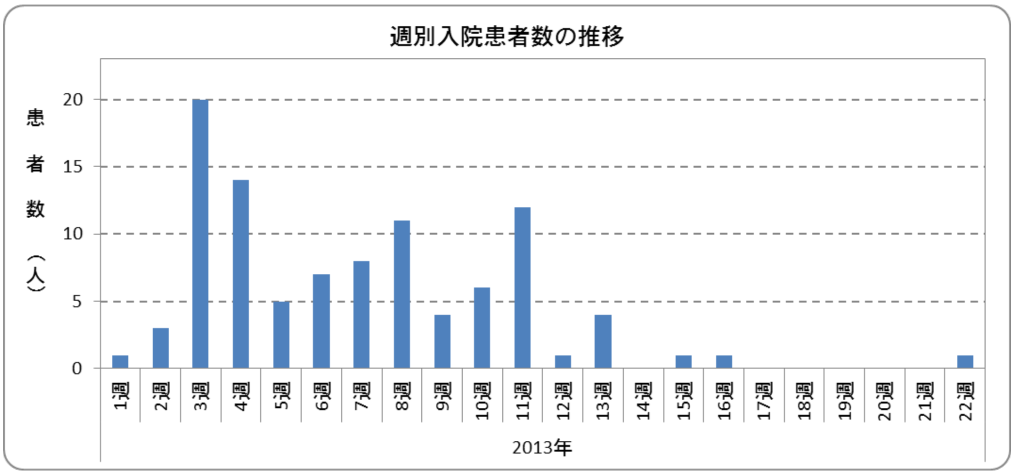
週別では、第 3 週に入院患者数が最も多くなりました。

【2012 / 2013 年シーズンにインフルエンザにより入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	**8**	**27**	**6**	**3**	**1**	**2**	**2**	**5**	**2**	**7**	**18**	**18**	**99**
ICU 入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部 CT 検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部 MRI 検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査（予定含）		1					1						2
いずれにも該当せず	8	18	2	2		1	1	5	2	6	16	18	79

＊重複あり





保健所別報告患者数 2013年 23週 （ 2013/06/03～2013/06/09 ）

2013年6月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	4	0.05	−	−	3	0.19	−	−	1	0.08	−	−	−	−	−	−
RSウイルス感染症	2	0.04	1	0.07	−	−	−	−	1	0.14	−	−	−	−	−	−
咽頭結膜熱	5	0.09	1	0.07	1	0.09	−	−	−	−	−	−	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	0.96	33	2.36	9	0.82	1	0.10	1	0.14	−	−	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	331	6.13	86	6.14	78	7.09	68	6.80	29	4.14	26	6.50	11	5.50	33	5.50
水痘	76	1.41	23	1.64	12	1.09	21	2.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	17	2.83
手足口病	58	1.07	4	0.29	3	0.27	1	0.10	43	6.14	−	−	−	−	7	1.17
伝染性紅斑	2	0.04	−	−	1	0.09	1	0.10	−	−	−	−	−	−	−	−
突発性発疹	26	0.48	15	1.07	4	0.36	3	0.30	2	0.29	1	0.25	−	−	1	0.17
百日咳	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヘルパンギーナ	35	0.65	17	1.21	4	0.36	−	−	6	0.86	1	0.25	2	1.00	5	0.83
流行性耳下腺炎	13	0.24	3	0.21	2	0.18	7	0.70	1	0.14	−	−	−	−	−	−
急性出血性結膜炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					−	−
流行性角結膜炎	7	0.58	6	1.20	1	0.25	−	−	−	−					−	−
細菌性髄膜炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−
無菌性髄膜炎	1	0.20	−	−	−	−					−	−	1	1.00	−	−
マイコプラズマ肺炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−
クラミジア肺炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−

（ − ： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数 2013年 23週　（ 2013/06/03～2013/06/09 ）

2013年6月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	4	0.05	－	－	3	0.19	－	－	1	0.08	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	5	0.09	1	0.07	1	0.09	－	－	－	－	－	－	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	0.96	33	2.36	9	0.82	1	0.10	1	0.14	－	－	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	331	6.13	86	6.14	78	7.09	68	6.80	29	4.14	26	6.50	11	5.50	33	5.50
水痘	76	1.41	23	1.64	12	1.09	21	2.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	17	2.83
手足口病	58	1.07	4	0.29	3	0.27	1	0.10	43	6.14	－	－	－	－	7	1.17
伝染性紅斑	2	0.04	－	－	1	0.09	1	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	35	0.65	17	1.21	4	0.36	－	－	6	0.86	1	0.25	2	1.00	5	0.83
流行性耳下腺炎	13	0.24	3	0.21	2	0.18	7	0.70	1	0.14	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	7	0.58	6	1.20	1	0.25	－	－	－	－					－	－

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものはありませんでした。

（－： 0 or 0.00） （空白 ： 定点なし）

感染症発生動向調査 週情報　報告患者数 年齢別　（ 2013年 第23週 2013/06/03～2013/06/09 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	4	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	5	－	－	2	－	1	1	－	－	－	－	－	1	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	－	－	1	5	5	10	6	6	6	1	1	8	1	2
感染性胃腸炎	331	2	24	61	24	26	31	27	16	11	12	15	40	7	35
水痘	76	2	6	19	16	8	9	6	3	2	－	2	2	－	1
手足口病	58	－	7	23	18	7	－	－	1	－	－	－	2	－	－
伝染性紅斑	2	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－
突発性発疹	26	－	10	14	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	35	1	－	10	5	4	7	4	1	1	－	－	1	－	1
流行性耳下腺炎	13	－	－	－	1	－	2	1	－	4	2	－	2	－	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	7	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1	4	－	1	－	－

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
マイコプラズマ肺炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

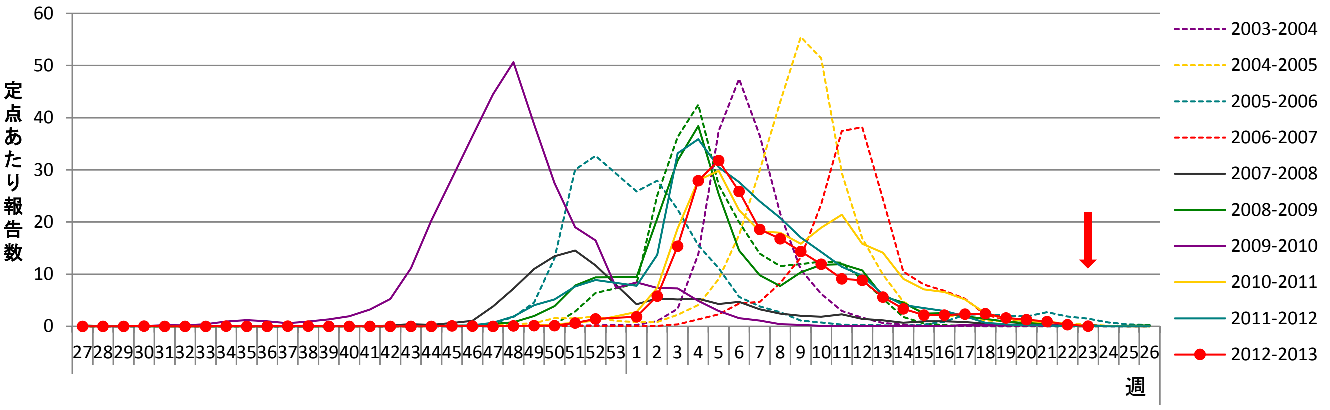
（－： 0 ）

全数把握 感染症患者発生状況

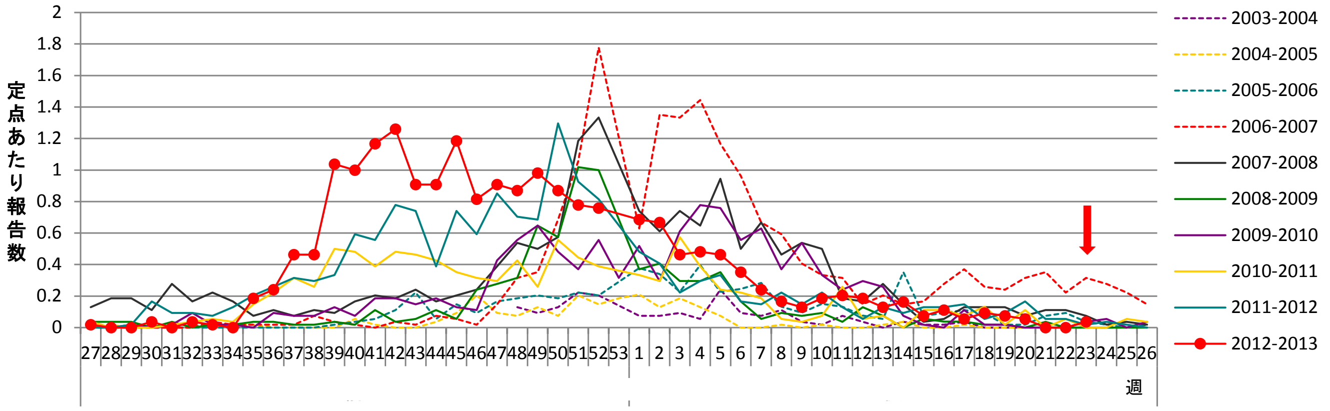
2013 年 23 週

分類	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア･コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	3	133	478	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ(H5N1)	–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	1	15	169
	腸チフス	–	–	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	–	–	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	4	2
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	–	腎症候性出血熱	–	–	–
	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–	炭疽	–	–	–
	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	2	デング熱	–	–	1
	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–	ニパウイルス感染症	–	–	–
	日本脳炎	–	–	–	日本紅斑熱	–	–	–	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–
	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–	ブルセラ症	–	–	–
	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–	発しんチフス	–	–	–
	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–	野兎病	–	–	–
	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–	リフトバレー熱	–	–	–
	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	8	29	レプトスピラ症	–	1	–
	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	4	11	ウイルス性肝炎*3	–	3	7	急性脳炎*4	–	2	2
	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト･ヤコブ病	–	2	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	–	1
	後天性免疫不全症候群	–	6	16	ジアルジア症	–	–	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	1	–
	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	1	9	–	先天性風しん症候群	–	–	–
	梅毒	–	3	7	破傷風	1	2	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	1	2	風しん	3	48	6	麻しん	–	3	6

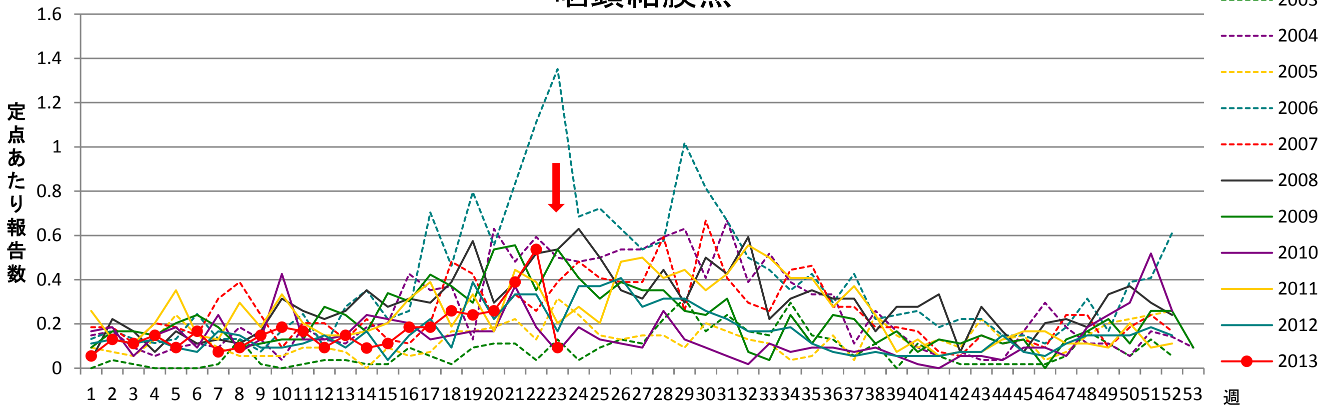
インフルエンザ



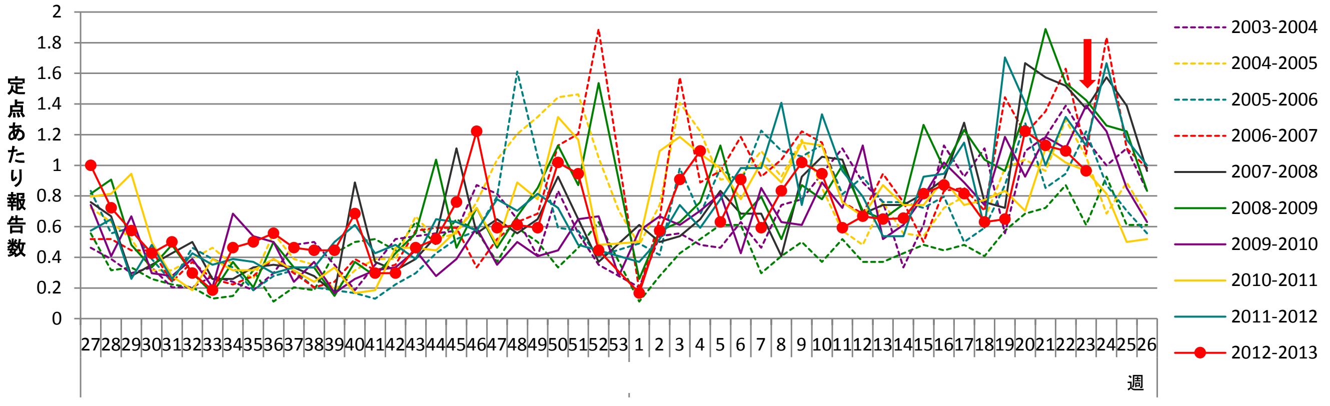
RSウイルス感染症

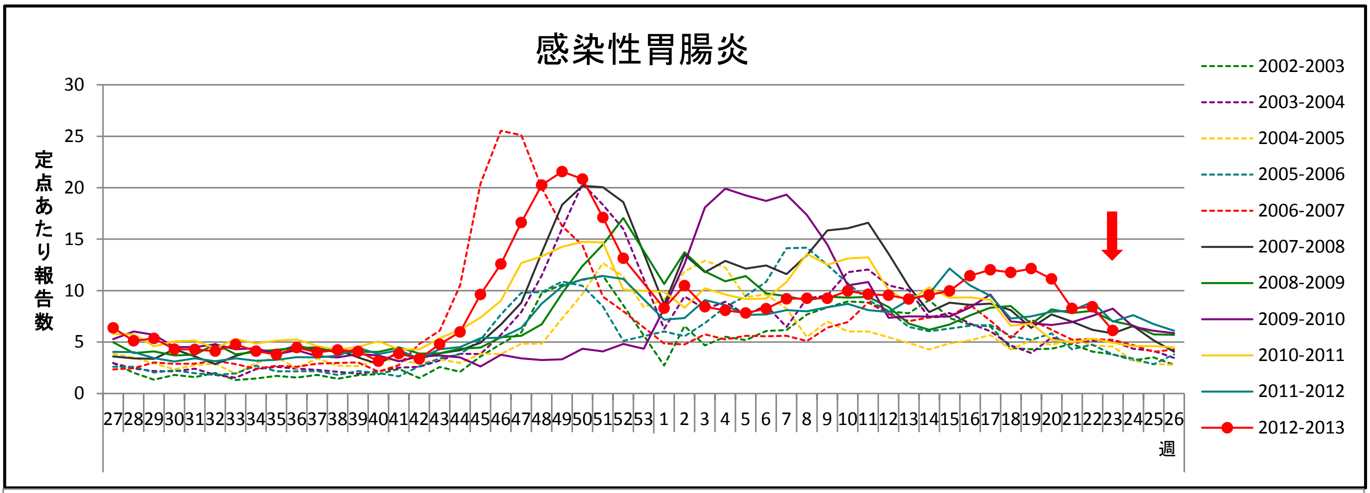


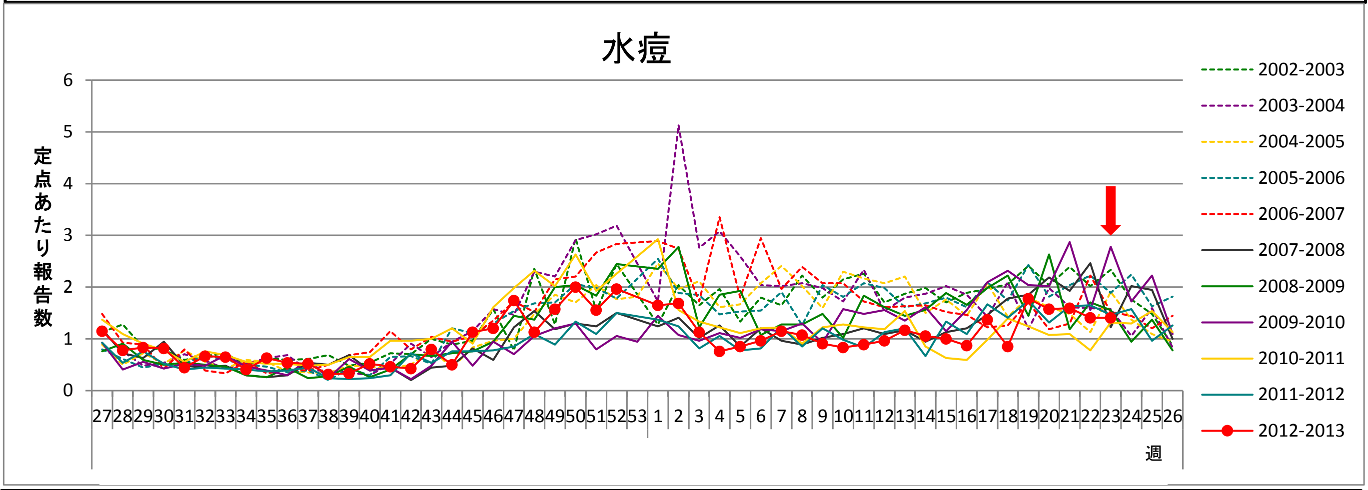
咽頭結膜熱

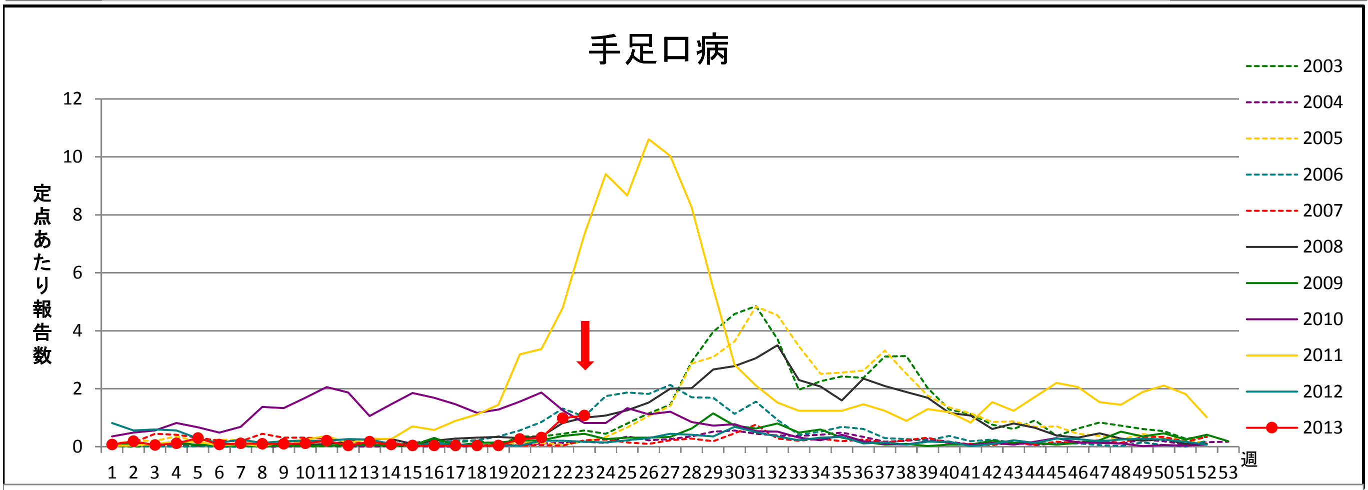


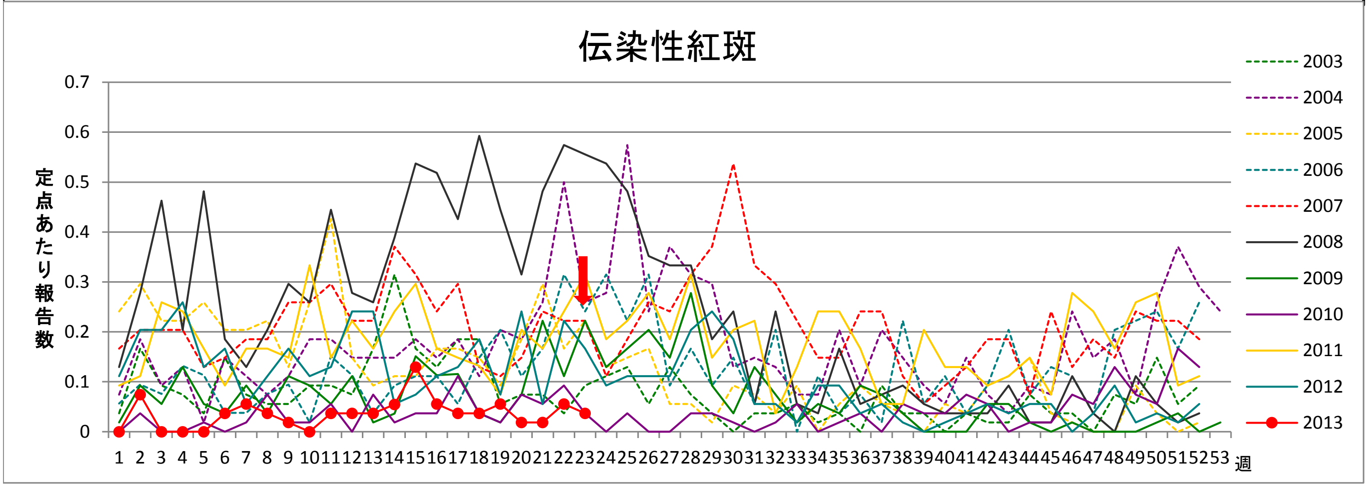
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

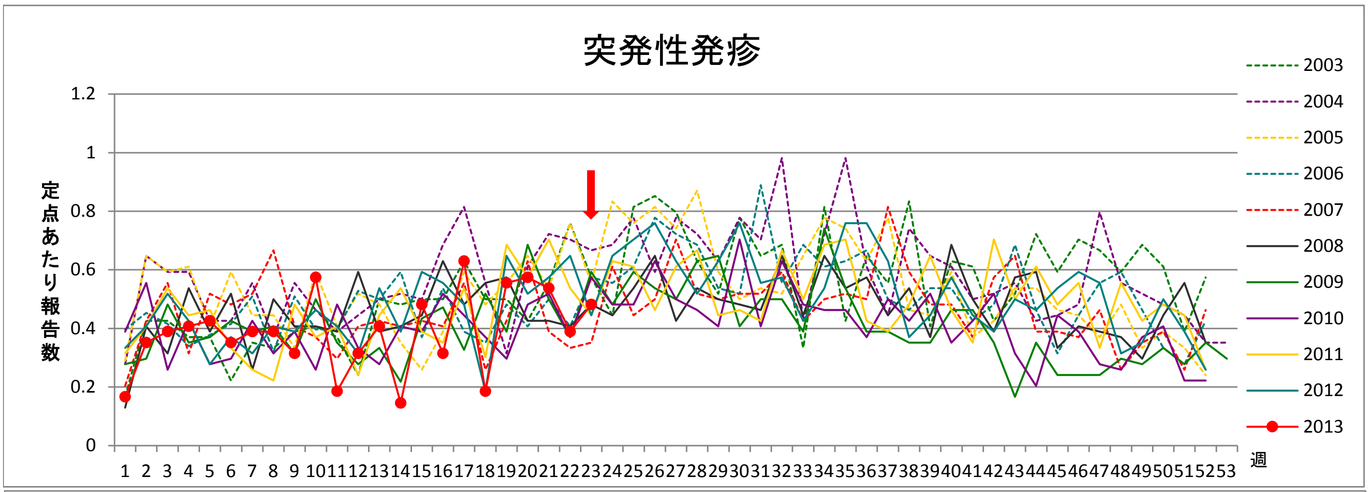


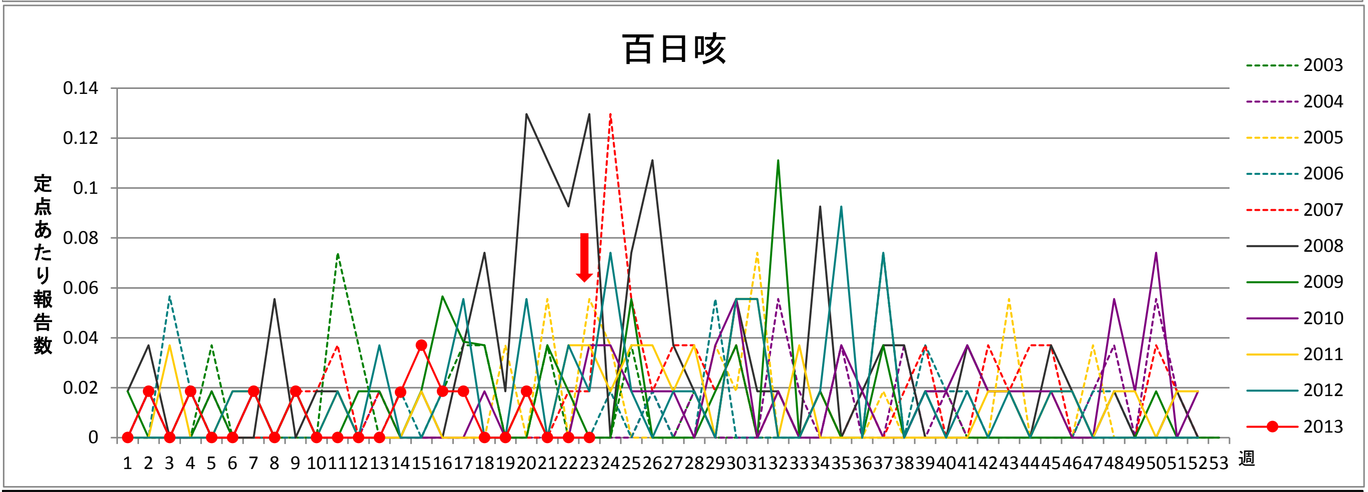

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

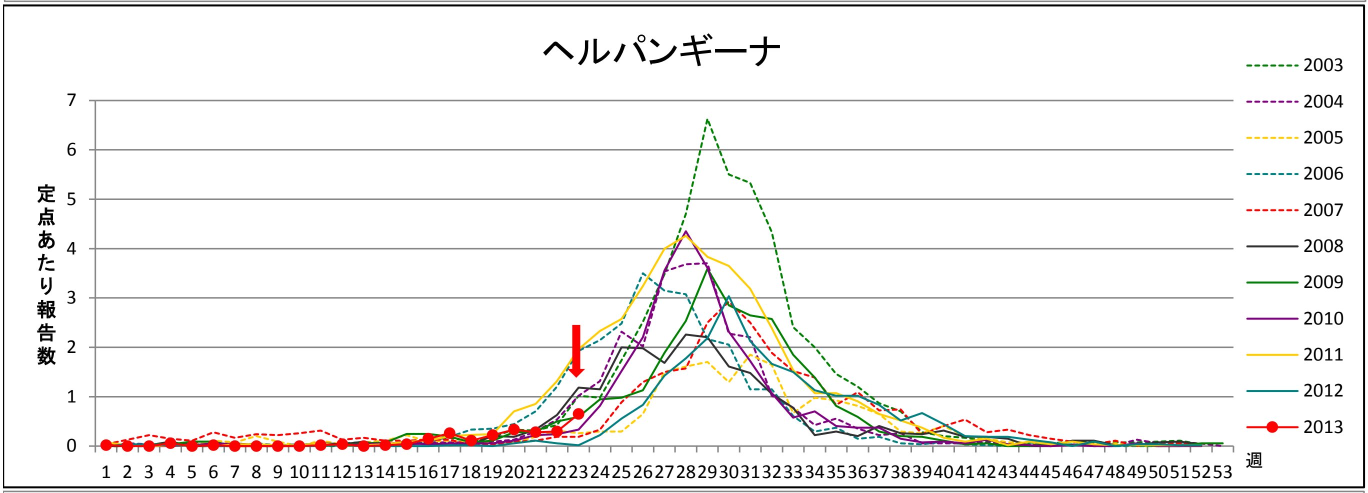

水痘
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

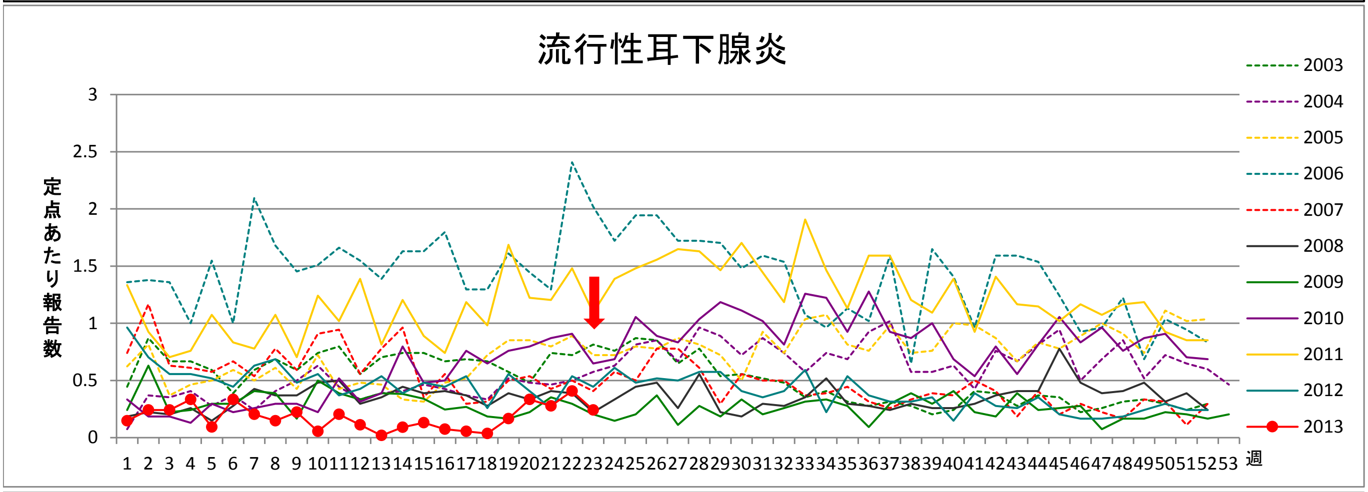

手足口病
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

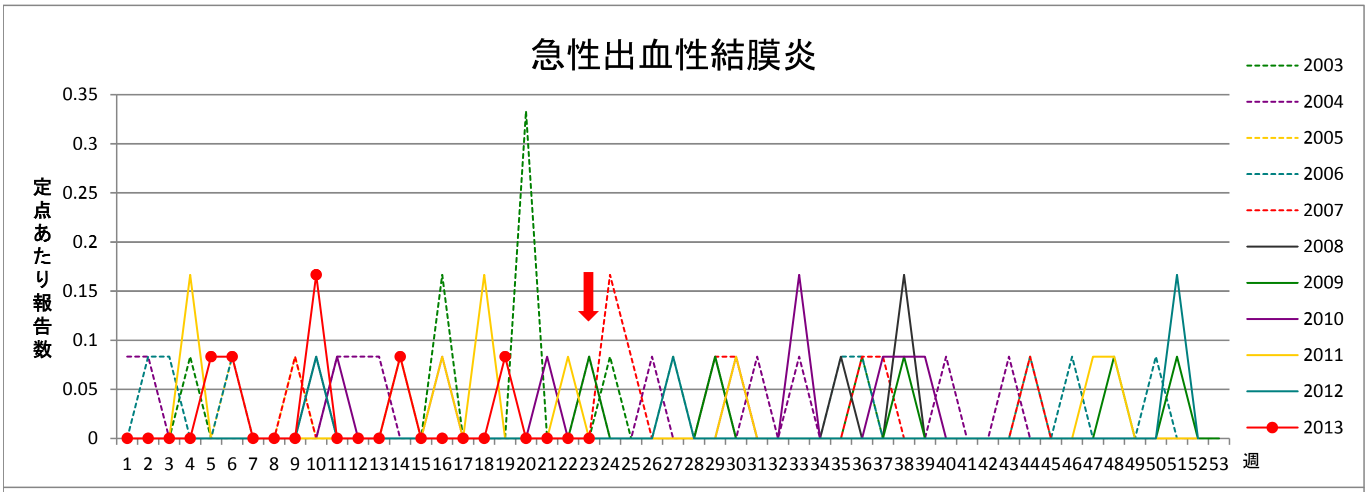

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

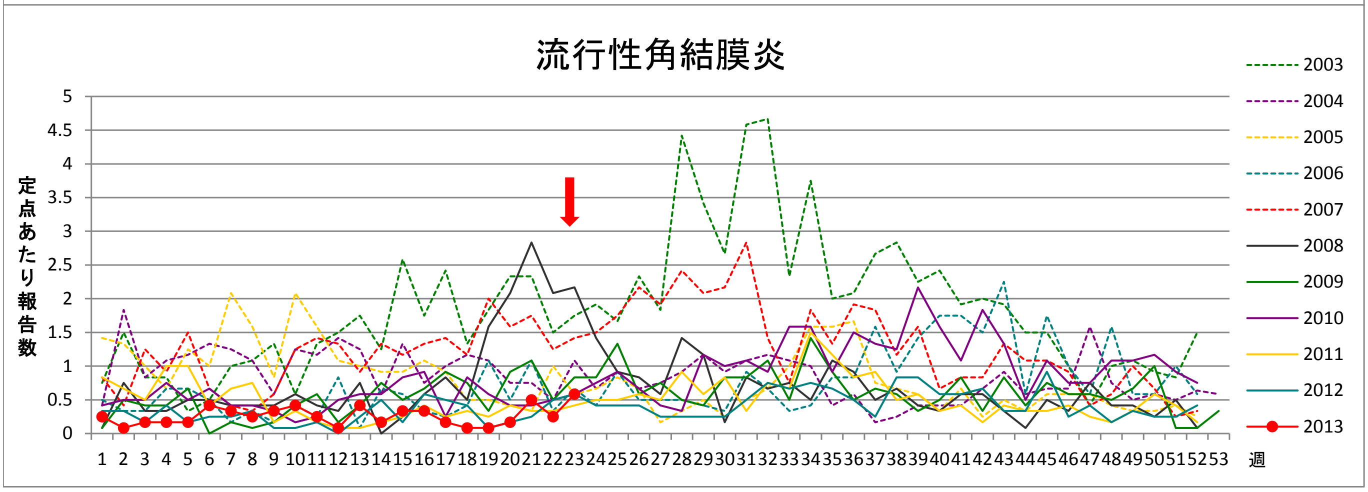

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

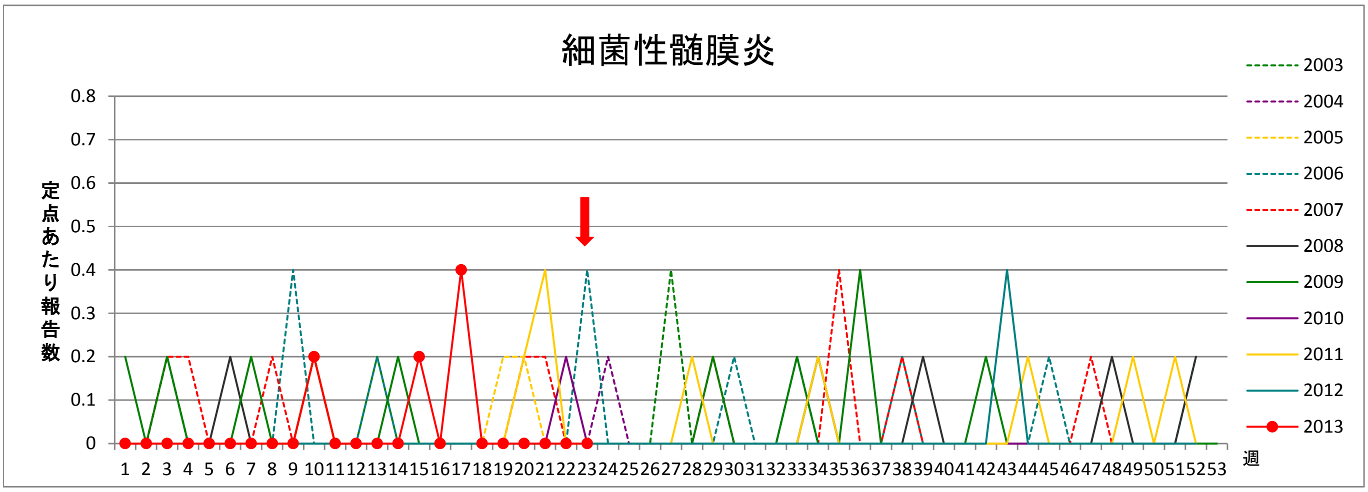

百日咳
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

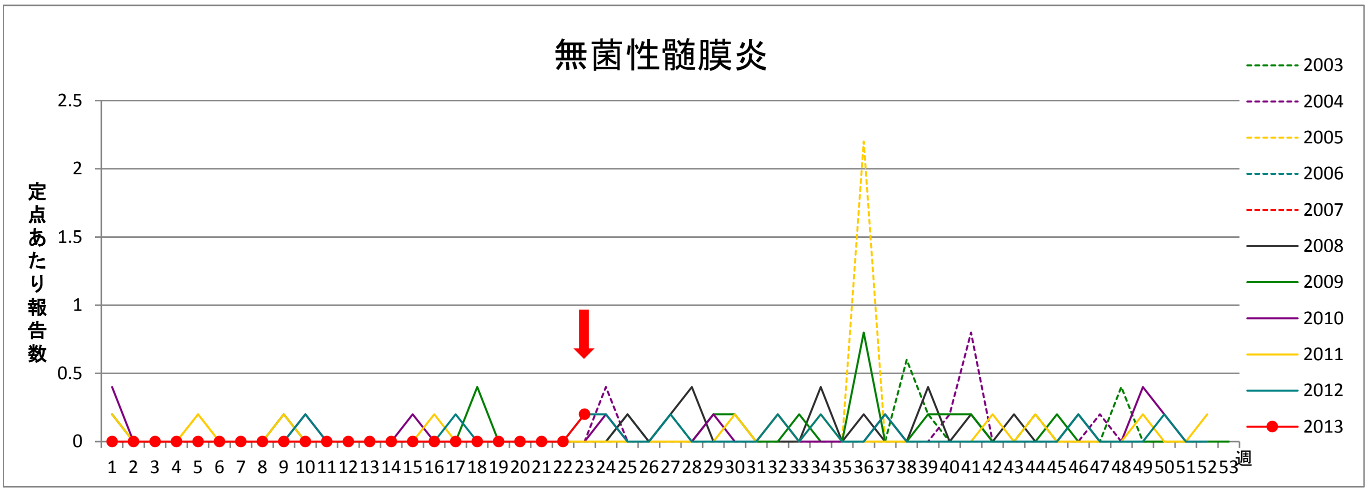

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

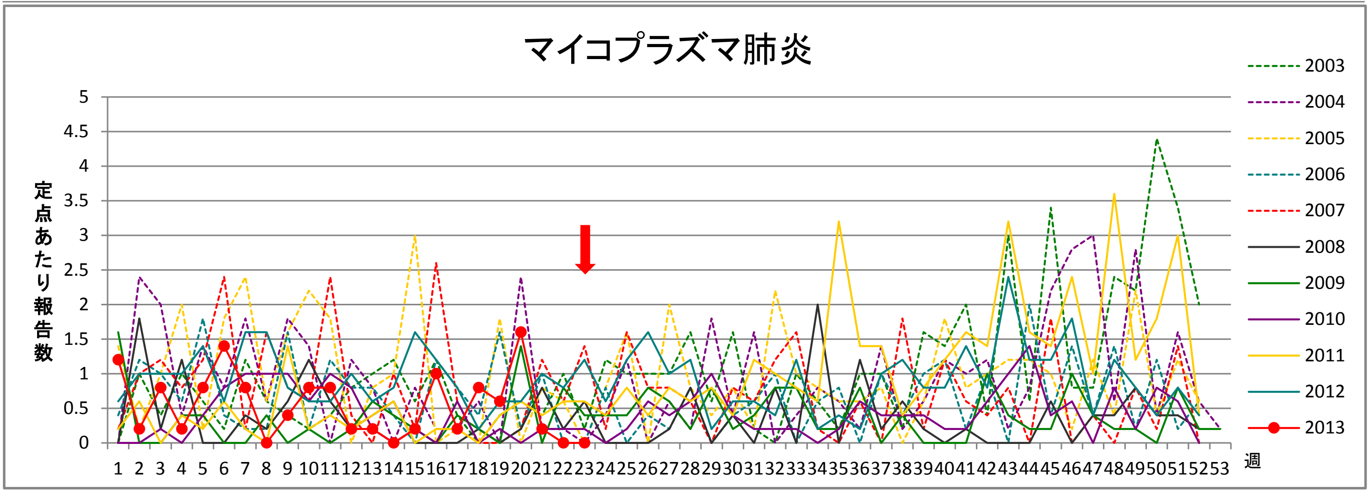

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

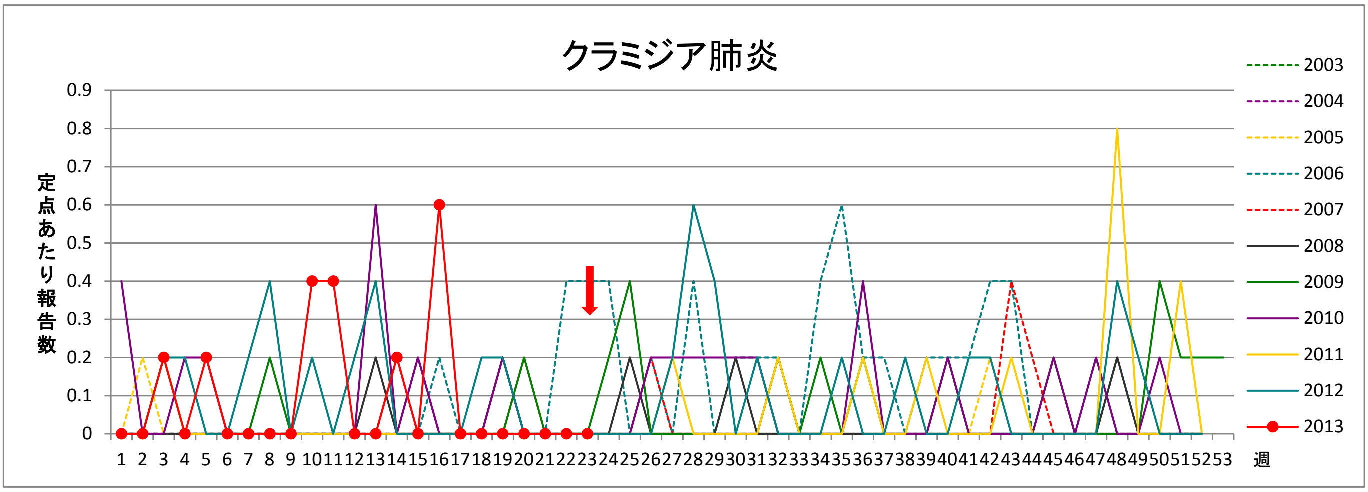

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013



マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013



クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013